

ボランティア研修プログラム

～異文化理解・心のバリアフリーを進めるワークショップ～

研修プログラムのねらい

- 2020年東京大会で実現したい地域のレガシーは、**高齢者も若者も、障害のある人もない人も、言葉や文化の違いも関係なく、すべての人がお互いを尊重し合い、支え合う共生社会**。そのためにはホストタウンでの国際交流を、地域を多様性に開かれた社会に変え、活性化していくきっかけとすることが重要。
- 交流事業に参加するボランティアや市民を対象に、**外国人や障害者など異なる条件を持つ多様な人々とコミュニケーションをとる際に、知っておきたい知識や心の持ち方を学べるアニメーション教材**を作成し、公開中。
- 本教材を活用したワークショップは、**ボランティアや市民の交流に係るマインドセット形成**に効果が期待。

アニメーション教材（全40分程度）

- ✓ 「心のバリアフリーについて学ぼう」～メッセージ編～（10分程度）
- ✓ 異文化交流をしてみよう（3分程度のモジュール7本で構成）
 - ・ イントロダクション
 - ・ 日本人の習慣、私たちの町を紹介しよう
 - ・ 食事場面で
 - ・ 日本の文化、生活体験
 - ・ 買い物
 - ・ リスク管理
 - ・ 外国人と接する際の心構え
- ✓ 「バリア」とはなんだろう？（2分程度のモジュール6本で構成）
 - ・ 声かけが必要なのはどんなとき？
 - ・ 困っていることに気づいたら①
 - ・ 困っていることに気づいたら②
 - ・ コミュニケーションの取り方が分からないときは？
 - ・ 見慣れない状況に出会ったら
 - ・ 「障害」とは何だろう？



➤ 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局のWEBに掲載

URL:http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/udsuisin/volunteer.html



想定される研修イメージ：ボランティア研修（120分）※ ボランティアに関する説明（40分）+ 研修（80分）

<研修構成の例> ※ 研修規模：20人程度（1グループ5～6人×4）

- ✓ 研修のねらいを説明
- ✓ 心のバリアフリーについて学ぼう～メッセージ編～を視聴（10分）
- ✓ グループ（G）内での自己紹介（7分）
- ✓ Gディスカッション：テーマ：多様な特性を持つ人とのコミュニケーションのポイント（10分）
- ✓ 異文化交流をしてみよう！（日本の文化・生活体験、買い物）を視聴（6分）
- ✓ Gディスカッション：テーマ：日本の文化・生活体験を紹介、買い物に案内するときに気を付けるポイント（12分）
- ✓ コメンテーターからのコメント（5分）
- ✓ 異文化交流をしてみよう！（リスク管理）を視聴（3分）
- ✓ 災害時の対応について説明（3分）
- ✓ 外国人と接する際の心構えを視聴（3分）
- ✓ グループ発表：研修全体を通じてどんな議論があったか、どんな気づきが得られたか（各グループ3分）
- ✓ まとめ
 - ※ 自治体のニーズに応じて、ディスカッション時間や取り上げるテーマ数を調整してください。
 - 取り上げられなかったテーマについては、受講者にセルフワークで視聴いただくよう、ご案内ください。

<研修当日の体制イメージ>

講師：1人 ※ 職員が実施できるよう講師用のシナリオ例をWEBにて提供中

ファシリテーター：4人

※ 短い時間でディスカッションを効果的に行えるよう、各Gにファシリテーターを配置することを推奨します。

コメンテーター：1人

※ ボランティア経験者や海外経験が豊富な方から、経験知を紹介いただくと、より理解が進みます。

<研修参加者の感想>

- あらためて異文化交流や多様な特性を持つ人とのコミュニケーションや外国人と接する心構えなど、気づきを得ることができました。しっかりおもてなしできるように心掛けていきたいと思えます。
- 文化の違いを理解し、先入観をなくし、心を込めて、お迎えしたい。異文化を知ることは自分の国、町を知ることに通じるし、地域での高齢者、障害者とのコミュニケーションにも、その経験を応用できると思った。

各自治体におかれては、本教材を活用する等により、ボランティア研修の積極的な実施をお願いします。